

中野村

H22.4.16.

天風録

ジャーナリス
トの児玉隆也
さんは国立が
んセンターを
初めて受診し

た日、トイレの落書き
が目には焼き付いた。「神
様、私の癌を治してく
ださい」。田中角栄元
首相の金脈追及で一
躍、名をはせた197
4年の暮れのことだ▲
末期の肺がんと闘う自
らの姿を見つめたルポ
「ガン病棟の九十九日」
にあるエピソード。執
筆を終えておよそ1カ
月後、38歳の若さで亡
くなった。患者として
の赤裸々な思い、家族
への気配り。単行本が
出版されて35年になる
が、読み返すたび胸を
打たれる▲この先、ど
んな治療や副作用が待
っているのだろうか。
同じような病気の人は

不安にどう向き合っ
ているのか……。わらにも
すがりたい患者や家族
は、先輩患者が書いた
「道しるべ」があれば
勇気づけられるに違
ない▲「がん闘病記
読書案内」を編んだ星
野史雄さんは、同じ立
場に立たされた病友の
告白だから心に響くと
いう。妻の乳がんを機
に始めた専門の古書店
で集めた本は2360
冊。最近では広島市立中
央図書館のように、病
気別のコーナーを設け
る図書館も増えてきた
▲本だけでなく、イン
ターネット上で病気を
語るブログもめじろ押
しだ。手軽に闘病記が
書けるサイトまであ
る。書き手と読み手が
つながり、支え合う。
そんな時代になったの
だろう。